

HANAMIZUKI

はなみづき

学報 vol.45

2017年

山陽女子短期大学

〒738-8504 広島県廿日市市佐方本町1-1
TEL(0829)32-0909 FAX(0829)32-0981<http://www.sanyo.ac.jp>

発行責任者 石永 正隆

印刷 大村印刷株式会社



第54回 陽月祭を終えて

第54期陽月祭実行委員会 委員長
食物栄養学科 栄養管理コース 2年

前田 有貴



今年も無事「陽月祭」を終えることができ、実行委員一同ほっとした気持ちでいっぱいです。

今年は、台風の接近により、2日間とも天候に恵まれず、特に2日目は場所を講堂に移動して行いました。最初、講堂でのステージはとても不安でしたが、屋内ステージだからこそ照明や音響を活かした、より華やかな演出をすることができて大いに盛り上りました。

雨にも関わらず多くの方にお越しいただき大変感謝しております。また、皆様からの温かい言葉が、私達の大きな励みになりました。

今思い返すと、準備中は楽しいことばかりではなく、投げ出したい気持ちになることも沢山ありました。しかし、陽月祭を成功させたいという強い気持ちを大学祭実行委員23人全員が持っていたことや応援して下さった先生方、地域の方々、連携の方達、そして一番近くで支えてくれた家族の思いがあったから、一致団結して頑張り抜くことが出来たのだと思います。ただ、一つの心残りは、特別企画のキャンプファイヤーです。残念ながら今年は実施できませんでしたが、来年の後輩達に受け継いでもらえたなら嬉しいです。

今回、このメンバーで陽月祭に携わることができて一生の思い出となりました。来年度も、可愛い後輩たちが作り上げる陽月祭に是非ご期待ください。関わってくださった全ての皆様、本当にありがとうございました。

学内展示等

人間生活学科・専攻科

食物栄養学科

臨床検査学科

□ 病院なんでもクイズ

□ 医事コンピュータ&電子カルテの入力体験

□ 学会スライド展示 □ 3Dプリンタを体験しよう

□ 心理テスト □ コラージュ体験

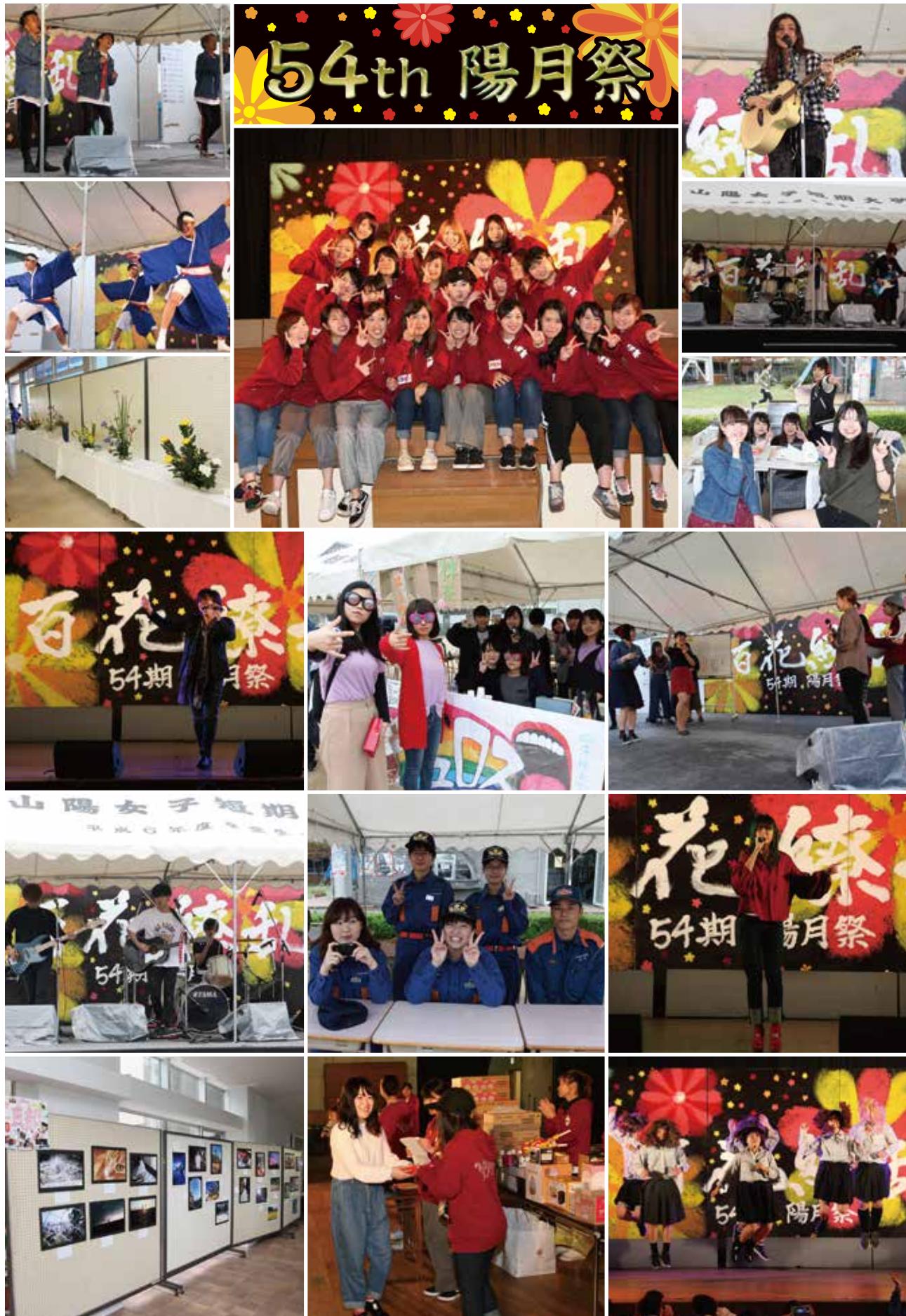
□ だまし絵体験 □ 箱庭体験

□ あなたの食事バランスをチェックしませんか?

□ 食物栄養学科の学習やサークル活動紹介

□ 食物パザー □ 加工パザー □ Sanjoレストラン

□ 標本を顕微鏡で観察してみよう



学外実習等

豪州医療福祉研修に参加して

人間生活学科 医療事務情報コース 2年 佐藤 奈都子



私は、9月2日から12日間行われた豪州医療福祉研修に参加しました。

本学からの参加者は私一人だったので、出発前はとても不安でした。しかし、他大学の学生と仲良くなったり、ホームステイ先の家族や研修先の先生方などたくさんの出会いがありました。また、老人施設や幼稚園に浴衣を着て訪問し、交流を深めるなど、多くの貴重な経験をすることができました。

特に印象に残っているのは、気候です。オーストラリアはカラッと乾いたような日が多く、雨が降ることは珍しいそうですが、その分、水が貴重で皆大切に使っていました。実際にオーストラリアで生活してみて、自分が普段から水を無駄遣いしていることに気づき、もっと水を大切にしようと思いました。

また、オーストラリアで出会った方々に自分の思いを言葉で伝えられず歯がゆい思いをしたことも印象に残っています。ジェスチャーを工夫すれば何とか伝わるのですが、英語が話せたらより楽しいだろうと思うようになりました。帰国後は自分のペースで英語を勉強して、いつかまたオーストラリアに行きたいと思っています。

日本とは違う国の文化や習慣に触れたり、たくさんの人と出会うことのできたこの研修に参加して本当によかったです。



インターンシップ(医療秘書実習)を終えて

人間生活学科 医療事務情報コース 2年 宮田 咲笑



私は、8月28日～9月8日の2週間、広島医療生活協同組合 広島共立病院で実習をさせていただきました。総合受付での受付業務、医事課での算定業務やレセプト点検、そして診療情報管理室の見学など多くの貴重な経験をさせていただき、どれもが新鮮で勉強になることばかりでした。

この実習で一番感じたことは「患者さん一人ひとりのことを考えた対応の大切さ」です。高齢の方とお話しする際は「ゆっくりはっきりとできるだけ丁寧に話す」、「補助が必要な患者さんにすばやく気づき自ら進んで行動する」など、実際に現場で働く方々は、常に患者さんに気を配りながら臨機応変に対応されており、感心すると同時に、私も見習おうとその場で出来ることを精一杯行いました。

また、日々の挨拶や声かけなど、一見些細に見える行動が、患者さんとの信頼を築く上で重要なのだと実感しました。この実習で学んだことを活かし、日々勉強を頑張っていこうと思います。



インターンシップ(企業)に参加して

人間生活学科 人間心理コース 2年 花田 杏子



私は、夏季休業中の4日間、地域活動支援センターⅢ型 Cross Roadにて実習をさせていただきました。実習では、施設利用者の方や相談員の方々と一緒に作業補助や調理、アクセサリー作りなど様々な活動をしました。他施設の相談員の方の活動報告セミナーにも参加させていただき、福祉の仕事についての貴重な体験談を聞くができ、大変勉強になりました。

始めはとても緊張していましたが、相談員の方は優しく、作業で分からないことがあるとすぐに教えてくださいました。利用者の方にも、「ゆっくりでも大丈夫、始めは私もそうだったよ」と声をかけられ、とても励みになりました。また、「好きなこと」、「はまっているもの」、「芸能人のニュース」など作業の合間に縫ってお話ししたことも楽しい思い出です。

特に印象的だったのは、利用者の方が「この場所は、みんな抱えているものもそれぞれで、誰も押し付け合わないのでとても楽な所だ」と言われたことです。皆さん様々な経験をしてきているからこそ、人に優しくできるのだろうと思いました。こういった姿勢は、人とのコミュニケーションにおいても大切なことだと教えられた気がします。

4日間という短い期間でしたが、たくさんの方たちと触れ合うことができ、充実した時間を過ごさせていただきました。「また来てね」という皆さんのお言葉が、とても嬉しかったです。

温かく迎えてくださった施設の皆様、利用者の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。これから私自身が生きていくなかで、人に対しての優しさを忘れずにいよう改めて感じました。

栄養士校外実習を終えて

食物栄養学科 栄養管理コース 2年 阿部 小織



栄養士校外実習は様々な施設の現場を見学・体験できる貴重な機会です。

私が行かせて頂いた廿日市市立廿日市学校給食センターは、毎日約8,000食もの給食を提供している施設で、食材の量や使用する機械・器具の数、それらを扱う調理員の人数、どれもが今まで見たことのない程大きな規模で圧倒されました。

中でも徹底されていたのは衛生管理です。汚染区域と清潔区域を入り口から分け、調理員も区域ごとに決められた色の靴やエプロンを着用し、区域間移動のないよう配置されていました。他にも厳しい管理をされており、この規模の施設で毎日全員が完璧に基準をクリアしている事にプロ意識の高さを感じました。

そのお忙しい中、未熟な私たち実習生を熱心に指導して下さった事に感謝しかありません。

私が栄養士として社会に出た時、校外実習で学んだことを活かし、その恩に報いたいと思います。

学外実習等

健康ランニングを受講して



食物栄養学科 栄養管理コース 2年 中村 綾花

私は今回初めて「八幡高原 聖湖マラソン大会(ハーフマラソン)」に参加しました。練習が始まったのは暑い時期だったため、体力的にも精神的にも大変でくじけそうになりました。しかし、思い切ってエントリーしたのだから、21kmは走り切りたいという気持ちもあり、授業での練習とは別に朝や夕方にも走るよう心がけました。

本番では緊張で頭が真っ白になり、最後まで走り切れるかという不安でいっぱいになりましたが、走り終えると自分の限界を超えたような気がして、今までない達成感を味わうことができました。ハーフマラソンに参加して新たな自分を知ることができ、とても良かったなと思っています。また、走り切れたのは共に練習した友達やまわりの方の声援があったからだと思います。機会があれば、ぜひまた参加してみたいと思います。



病院見学実習を終えて

臨床検査学科 臨床検査コース 1年 森山 怜奈



9月19日にJA広島総合病院で、臨床検査技師の方々が活躍されている現場を見学させていただきました。

実際に臨床検査技師の仕事をされている姿に触れ、自分が思っていた以上に多くの業務や大きな責任があり、大変な仕事だと思うと同時に、とてもやりがいのある仕事であると改めて感じました。

現在では技術が発達し、検査機器が迅速に検査結果を出してくれるので、今の臨床検査技師には、この結果から次に何をどうすればいいか、考える力が必要だということを学びました。

また、結果を追及し、患者さんや医師、看護師に正確な情報を伝えることも臨床検査技師として大切な事だと教えていただきました。

これからは、日常生活を送る中で普段見落としてしまいそうな何でもないことにも疑問を持ち、常に考えることを心がけ、考える力をつけるよう努力したいです。

今回、貴重な体験をさせていただき、患者さんや医師・看護師の皆さんから信頼されるような臨床検査技師になれるよう、一歩一歩頑張っていこうと思います。

シスメックス施設見学を終えて

臨床検査学科 臨床検査コース 2年 廣瀬 純



9月14日に株式会社シスメックスを訪問し、ソリューションセンターとアイスクエアを見学させていただきました。

ソリューションセンターでは、実際に使用されていた歴代の臨床検査機器を見学しました。何十年もの年月を経て、現在の簡便で小型化した機器へと発展して行った過程を理解することができました。

また、アイスクエアでは機器の生産過程から出荷するまでの工程を見学させていただきました。一つひとつの機器が手作業で組み立てられていることに驚きました。



今回の見学では、私たちが大学で学んでいる色々な実習がどこまで機械化されているのか、また、どの様な状態で機械化されているのかを実際に目にすることができます、とても有意義な施設見学となりました。

今回の経験を来年の臨地実習で活かしていきたいと思います。

臨地実習を終えて

臨床検査学科 臨床検査コース 3年 河野 有香



4月中旬から約4ヶ月間、広島市立安佐市民病院で病院実習を行いました。

始めは慣れない環境に緊張していましたが、業務を教えていただいているうちに徐々に理解できるようになりました。大学の講義や実習では学ぶことの出来ない体験ができました。患者さんへの対応を始め、検体を大切に扱い正確な数値を出すために徹底した精度管理を行っている事や標本や検査数値から患者さんの状態を読み取られている姿など、驚きと発見の連続で、目に映る全てが興味深く、知識を深める良い経験となりました。

例えば、一部分の状態をみて誘起される他の部位の状態を推測するなど、専門性の高さだけでなく、他分野についての見識の高さに感銘を受けました。そのような姿を拝見することにより、自分自身どのような臨床検査技師になりたいか明確な目標を持つことができました。その目標に近づくために私が今出来ることは、大学の授業で学んだ知識をしっかりと理解し、身につけることだと思います。

今回の体験を忘れることなく目の前のこと真摯に取り組み、これからも研鑽を積んで行きたいと思います。

卒業生頑張ってます

病院医事課の一員として



人間生活学科 医療事務情報コース 2017年3月卒 濱古 優希

私は、医療法人エム・エム会 マッターホルンリハビリテーション病院の医事課に勤務し、受付や会計業務を担当しています。医事業務では、会計済みの患者さんのカルテの再チェックや外来予約患者さんのカルテ出し、入院予定患者さんの入院登録、初診患者さんの保険や紹介状の有無の帳簿記入、レセプト整理などを行っています。その他、併設のグループホーム入所者が購入された日用品等の領収書作成の業務などもあります。

今の職場では、電子カルテが12月に導入されたのですが、山陽女子短期大学の在学中に電子カルテを授業で学んでいたため、特に問題なくスムーズに仕事ができていると思います。また、授業で日常的に医科点数表の解釈や薬効・薬価リストの本も使用していたので、分からぬところも素早く探すことができます。

仕事の内容も難しく大変なこともあります、患者さんの笑顔を見たり、お礼を言われたり、ほめられたりすると、頑張って良かったと思います。

この病院は、実は在学中に病院実習でお世話になった病院です。学生時代から引き続き先輩方にも良くしていただいているので、早く仕事を身につけ、貢献できる人材になりたいと思います。

楽しい時間をお客様に提供したい

食物栄養学科 栄養調理コース 2014年3月卒 吉川 佳那未



大学卒業後、アーククラブ迎賓館 広島で働き始めて4年が経ちました。現在、2番手として働かせてもらっています。

1日の主な仕込み内容は、水曜日にお肉、木曜日に野菜、金曜日に魚の下準備や下処理を行っています。厨房業務が終わると必要な食材などを書き出し、発注業務を行います。

以前はやることがとても多いと感じたこともありました、今では、先輩方から色々な業務を学びながら毎日刺激を受け、たくさんの調理方法を知り、とてもやりがいを感じています。

結婚式は一生で1番幸せな時間です。その貴重な一部に携わることの重みを感じながら、このような経験が出来る事、お客様から美味しいかったと言って頂けること、また、仕事をたくさん任せてももらえることが頑張る源になっています。

コックになって4年目になりますが、まだ分からぬことがたくさんあり、その都度シェフにアドバイスをもらっています。美味しい料理を作るためにこれまで以上に調理の技術や知識を身につけ、早く一人前になれるよう頑張ります。

病院で活躍できる臨床検査技師を目指して

臨床検査学科 臨床検査コース 2016年3月卒 田畠 詩野



私は短期大学を卒業し、広島赤十字・原爆病院で臨床検査技師として勤務して2年目になります。現在は微生物検査を担当する傍らで、当直や採血業務にも積極的に取り組んでいます。毎日が新しいことの連続で、日々先輩方に助けてもらい、また、同期とは仕事面や精神面でも支え合いながら社会人生活を頑張っています。

今思い返せば山陽女子短期大学での3年間は、講義や実習に追いかけられながら駆け抜けた3年間でした。その中、国家試験に合格するための知識を修得しなければならず、時間的には厳しかったですが、それによって大きな課題にも負けない気持ちの強さが身に付いたと思います。そして、病院でのアルバイトや学会のお手伝いなど、在学中に現役の臨床検査技師として働く方たちとの繋がりをもつ機会を与えていただけたことで、私は今ここにいるのだと思っています。

これからも学び続ける姿勢、様々な発見や出会いの大切さを忘れず、病院のために活躍できる臨床検査技師を目指していきたいと思います。



専攻科を卒業して

専攻科(診療情報管理専攻) 2017年3月卒 篠田 千裕



私は卒業後、益田地域医療センター医師会病院で医師事務作業補助者として勤務しています。主な業務は、診療のサポートです。診察日の午前は、外来で患者さんを診察室にお呼びしたり、医師や看護師の患者さんとのやり取りを聞き逃さないよう電子カルテに入力したり、医師への電話対応などを行っています。

病院では多くの患者さんを診察するため、1人の患者さんの診察時間は限られています。この短い時間の中で業務を素早く正確に行うには、臨機応変な対応が求められますが、分からぬことや疑問が出てきた時は、後回しにせず、即座に質問をし、確認することを日々心掛けています。

午前の外来診察の後、午後からは診断書の作成を行っています。書類の種類も様々で、それぞれ定められた作成ルールがあるため、一つの診断書を完成させるために大変な時間を費やすこともあります、在学中に大学で学んだことを思い出しながら業務を行っています。

今は、先輩方にご指導いただきながら仕事を覚える毎日ですが、これからも常に向上心を持ち、どんな業務にも積極的に取り組んでいきたいと思います。



「就職活動の背景と本学の状況報告」

就職指導部 西一美

近年、新卒者の就職活動の解禁スケジュールは毎年の様に変動を重ねて来ました。2015年卒は説明会開始が12月～、選考開始が4月～、その翌年の2016年卒からは説明会が3月、選考開始が8月と変更となり、更に翌年2017年卒からは選考開始が2ヶ月早まり6月～と毎年スケジュールが見直しされた事で学生や大学側、さらに受入側の企業サイドにとっても大きな混乱となりました。

その様な背景の中、本学の就職状況につきましては2015年度～2016年度の2年間は連続して全学科全コース就職率100%の実績が維持しております。

就職実績につきましては、2016年度全国短期大学平均就職率は97%、また県内短期大学平均就職率は95.2%となっており、本学の就職率の高さと安定性を維持しております。

専門コースの多い本学の強味である専門の知識や資格を活かした就職をした実績を表す専門就職率も同じく過去2年間平均86.6%と安定した結果を出す事ができました。

今年度は特に栄養管理コースが70%台から80%台へ実績を上げており、専門就職に短期大学であることを実証できていると感じております。

小規模校である事をむしろ強味に捉え2015年度より就職サポートのテーマを「オーダーメード・一人ひとりの夢を大切に」とし、学生一人ひとりの将来への希望を叶えるために完全予約制の個別相談で個性やベースに合わせた計画的なサポートを心掛けて実践しております。

また、多くの就職先で求められているソーシャルスキルを身に付ける機会を年間30回のフレッシュマンセミナー・キャリアアップセミナーを通して学びの場に出来る様、またコミュニケーションやビジネススキルの個別のトレーニングのメニューも学生がそれぞれの課題に集中して取り組めるよう支援を充実させています。今年度も就職率100%は当然の事とし学生と就職先の双方に満足して頂ける様「オーダーメード・一人ひとりの夢を大切に」のテーマに添ったサポートに努めて参ります。

カウンセリング・ルームより

カウンセラー 堀内 綾音



昨年度よりカウンセリング・ルームのカウンセラーとして着任した堀内です。私が着任して1年が経ちました。カウンセラーが常勤するようになったので、学生の皆さんに少しでも悩みを相談しやすい環境になっていれば良いなと感じています。

昨今、対人関係の悩みを抱える人が増えていると耳にすることも多いのではないかと思います。実際に本学でも対人関係についての相談がよくあります。核家族化が進み、大人との接触の機会が極端に減ったこと、ネットの普及により一人で過ごす時間が増え、対人コミュニケーション能力を培う機会が少ないため、対人関係に難しさを抱える人が多いかもしれません。

また、対人関係での悩みを抱えながらも何を話せばよいか分からず二の足を踏んでしまう人もいるようです。カウンセラーとしては、上手く話ができなくても良いので、しんどさを一人で抱えることはせず、そのしんどさを吐き出す機会を持ってほしいと願っています。

2017年度 保護者会の開催報告について

学生部長 石河 健

9月9日(土)、午後より松江地区(松江市)、福山地区(福山市)、周南地区(徳山市)の3会場に於いて、例年通り保護者会を開催しました。広島市近辺の保護者の皆さまには、本学にお越し頂いて学生の近況等をご報告させていただいておりますが、遠方からの保護者さまにも、より多くの参加の機会を提供するため、地方に会場を設けて開催している次第です。

お忙しい中、本学会場並びに地方会場に足を運んでいただき感謝申し上げます。

さて、保護者の皆様は学生の成績はもとより、就職環境についても高い関心を持たれています。本学会場の場合はチューターの他、就職指導コーナーを設けてご相談をお受けしていますが、地方会場に於いてはチューターが対応して来たのが現状でした。

そこで今回新しい試みとして、例年、参加される方が多い周南地区に限り、就職指導部からの説明会を同時開催しました。当日は希望された方を対象に、「労働市場の現状と把握および情報共有によるソーシャルスキルの重要性に対する意識改革」を目的とし、「職場で求められる人材とは」というテーマに沿ってご紹介をさせていただき、早期離職を防止する対策なども話題に挙げました。

意見交換の場では、『親自身が就職や定着について大事なことは何か改めて実感できた』という声も聞かれ、予想以上の評価を得ることができました事も付け加え、ご報告とさせていただきます。

なお、**本学保護者会は、2018年3月24日(土)に開催の予定です。**詳細につきましては、おって郵送にてお知らせいたします。



第43回日本診療情報管理学会学術大会 「学生セッション」に参加して

9月21日に北海道の札幌コンベンションセンターで開催された「第43回日本診療情報管理学会学術大会」の特別企画「学生セッション」に人間生活学科 医療事務情報コースの2年生4グループが参加しました。

医療界の方々の前で発表したことは学生たちにとって、自信につながったのではないかと思います。また、今回全部で61題の発表がありましたが、同年代の人たちの発表を聞くことで刺激を受け、将来につながる良い経験になりました。



地域産業につながる食品開発 「かき魚醤の活用」について



広島県は年間約2万t(むき身)のかき生産量があり、その中で規格外のものが約3%発生しています(単純計算すると約300t)。この規格外のむき身かきを利用して新しいかきの加工品を製造できないかと考え、食物栄養学科 食品開発コースの学生たちと未利用のかきを利用して「かきの魚醤」の製造に取り組むことにしました。

まず、この醤油がどのような料理や加工品に使えるかを実験したところ、卵料理や中華料理などに使うと、かきのコク味や香りを活かせることが分かりました。最終的に、これらの結果をレポートにまとめ、企業に提案し製品化につなげることができたことは、学生にとって、よい経験になったと思います。

これからも、学生にとって何かしら心に残る授業を提供することができれば、幸いに思います。



学生サークル『SRV』が 知事感謝状をいただきました!



10月10日に広島県庁にて「平成29年度臓器移植等推進功労者に対する知事感謝状」の贈呈式が開催され、湯崎知事より本学の学生サークル『SRV』(山陽女子短期大学赤十字ボランティアサークル)が贈呈を受けました。

『SRV』では、特に骨髄バンクドナー登録会のボランティア活動に力を入れており、日本骨髄バンクが委嘱する「説明員資格」を部員の17名が取得しています。そして、広島市内で開催されているドナー登録会に積極的に参加しています。

これからも、一人でも多くの方に骨髄バンクドナー登録の必要性を知つてもらえるよう活動を広めていきたいと思います。



NHKラジオ「必聴!キャンパス自慢!」で大学生活をアピール 専攻科(診療情報管理専攻)1年 平野 佑実



7月25日に放送された、NHKラジオ「必聴!キャンパス自慢!」に電話インタビュー形式で出演しました。

私が紹介した自慢は、診療情報管理士を目指して勉強をしていることです。診療情報管理士は、医療機関におけるIT化や制度改革が進むにつれニーズが高まり、重要な資格を持つ専門職であることや専攻科を卒業した先輩の現場での活躍を見て、私も診療情報管理士になりたいと思ったことを伝えました。また、本学の専攻科は専門職を目指すための教育環境が整備された大学で、診療情報管理士の資格に加えて診療報酬請求事務能力試験等の資格取得を目指して頑張っていることをアピールしました。



フードフェスティバルに出展しました



10月28日・29日に広島城周辺で開催された「ひろしまフードフェスティバル2017」に出展し、季節の食材を使った焼き菓子の販売、おからを使ったドーナツの実演販売を行ないました。

当日は台風の影響で雨、風が強かったこともあり、全体的に来場者数が少なかったですが、たくさんの方に購入していただき、焼き菓子は両日とも完売することができました。

学生たちは、普段何気なく購入していたものが、どのように作られ、どのように販売されているか身をもって体験し、販売者としての大変さを感じることができたと思います。

第66回日本医学検査学会inちば「国際学生フォーラム」に参加して 臨床検査学科 臨床検査コース3年 佐々木 優



6月17日に千葉の幕張メッセで開催された「第66回日本医学検査学会inちば」の特別企画「国際学生フォーラム」に参加しました。

「Advantages of a new electroencephalogram (EEG) system (新しい脳波検査方法がもたらす効果)」と題して、脳に病気を持つ子どもたちを偏見や差別から守るために、また、医療機器が揃っていない发展途上国でも簡単にできる脳波検査についてアイデアを英語で発表しました。

発表だけでなく質問、回答もすべて英語のため、とても緊張しましたが自分の考えがしっかりと伝わったので、自信を持つことができました。また、一緒に参加した日本と韓国の学生の発表にも多くの刺激を受けました。



これからもしっかり勉強に励み、国際的にも活躍できる臨床検査技師なれるよう頑張りたいと思います。